

自動車会議所 ニュース

発行所



一般社団法人 **日本自動車会議所**
Automobile Business Association of Japan

〒105-0012

東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館

電話：03 (3578) 3880

FAX：03 (3578) 3883

URL

https://www.aba-j.or.jp



第4回 CSP大賞2024

CSP大賞 特別号
2025 No.960

発行人 島崎 豊

編集人 田村 里志



受賞者との記念撮影の様子



大賞を受賞した「全国軽トラ市でまちづくり団体連絡協議会」の皆さん(左から2～5人目の4人の方)

幅広い関係者が課題解決へ協力

25の優秀な取り組みを選定



第4回(2024年度)クルマ・社会・パートナーシップ大賞表彰式

主催 日本自動車会議所 日刊自動車新聞社



▲第4回「クルマ・社会・パートナーシップ大賞」表彰式。受賞者、関係者に感謝の意を伝える内山田会長

日本自動車会議所(内山田竹志会長)は2025年2月7日、東京都港区の第一ホテル東京で第4回(2024年度)「クルマ・社会・パートナーシップ大賞(CSP大賞)」(共催：日刊自動車新聞社)の表彰式を開催し、受賞者を始め自動車業界の関係者など約100人が出席しました。今回は全国から46件の応募があり、25件を「グッドパートナーシップ事業」に選定しました。その中から「大賞」、大賞に次ぐ「選考委員特別賞」、そして「部門賞」として「モビリティ・ソリューション賞」2件、「地域・コミュニティ活性化賞」2件、「SDGs貢献賞」2件、「自動車ユーザー連携賞」1件の計7件の受賞者を決定しています。主催者を代表して挨拶に立った内山田会長は、「今回

は共同応募に名を連ねる企業、団体の数が増えており、多くの関係者を巻き込んで課題解決に当たるプロジェクトが多かったと感じています。受賞した取り組みにはより光を当て、幅広く広報を行っていきます。今後もクルマ・社会・パートナーシップ大賞は当会議所の大切な事業として継続し、自動車業界の重要な表彰制度にしっかりと育っていきたく考えています。第1回となる2025年度のCSP大賞においても、今から数多くの素晴らしい取り組みに接することができると楽しみにしています」と話しました。この後、賞状授与や受賞者のスピーチなどのセレモニーが行われ、表彰式終了後は別フロアへ会場を移して交流会が実施されました。

第4回 クルマ・社会・パートナーシップ大賞

大賞は軽トラ市による商店街活性化

大賞には全国軽トラ市でまちづくり団体連絡協議会(通称「軽トラ市」)の「軽トラ市による商店街活性化活動」が輝きました。賞への応募は、軽トラ市と岩手県石巻市、宮城県川内町、愛知県新城市の各市町で軽トラ市を運営する実行委員会と、愛知大学・遠南信地域連携研究センターの共同によるもので、表彰式でスピーチしたしんろ軽トラ市「のんほいリゾート」実行委員会のワーキングメンバーの安藤誠一さんは、「(われわれだけでは)全国で軽トラ市を運営しているすべて

受賞者 喜びの声

グッドパートナーシップ事業に選定された企業や団体からも喜びの声が上がりました。取り組みをもっと進めるパートナーや地域への感謝を伝えるメッセージが目立つとともに、すでに取り組みの次の段階を見据えているところも少なくありませんでした。選定企業・団体の代表者のコメントを紹介します。

モビリティ・ソリューション賞
「ハイブリッド車(HV)を活用して医療のケア児を災害時に支援することの取り組みは、医療のケア児やその家族に貢献する『サテライト』と一緒に行っています。サテライトの代表が当社社員に顧客であり、そこから始まりました。現場のつながりが活動に結びついたのはうれし限りです。今後、この取り組みを全国に広げたいと思っています。皆さんの中にも取り組んでほしいという方がいたら一緒にやってみよう」と(トヨタカローラ香川の向井良太郎社長)

鎌田選考委員長の講評に傾聴する来場者

の人々が評価をいただけることを考えています」と喜びを語りました。また、軽トラ市の協力や支援に尽力したスズキの故・鈴木修前会長の「軽トラ市は地方活性化の切り札。地方が元気になれば日本全体が元気になる」という言葉を紹介し、「この言葉を胸に全国で横の繋がりをさらに強め、一層の発展に努めていきます」と話しました。軽トラ市は2005年のスタートから現在、全国150カ所以上で開催されており、商店街の活性化を目指す重要な手法として各地で根付いています。

選考委員特別賞は南信州広域タクシー
選考委員特別賞は、南信州広域タクシーの「EVタクシー」のデマンド交通運行COO削減」が受賞しました。同

にも、沖縄ならではの特色を生かして取り組みを進化させていきます」(トヨタレンタ



交流会懇親を深める参加者

社。鈴木佳史社長はスピーチで、「地方のタクシー会社で2008年から一生懸命やってきたことが、間違いではなかったと喜びを語るとともに、「自動車メーカーの技術開発や自治体との協力、そして地域に根差した企業とそこに従事する人々との関わりが、初めてわれわれのゼロエミッションタクシーが実現した」と感謝を述べました。

た。さらに「中小・零細のタクシー会社でも各所との協力で実現できる活動があることを発信していただきたい」と協力を呼び掛けました。講評を行った選考委員会の

地域・コミュニティ活性化賞
「地域の仲間と地域通貨の期限切れや売り上げの一部を使い、NPO支援を行っています。経営を学んだ時は納税と雇用で責任を果たすと習いましたが、もうそういう時代ではありません。少子高齢化で構造的な問題を抱える地域を自分たちの手で良くすることが事業者の責任なのではないかと思っています。この取り組みが日本全国に広がるよう頑張っていきたい」(ネットウツタニユリ北大阪の小西敏仁社長)

「当社はモビリティを使った地域活性化の取り組みを進めています。地域の不用品を世界中に送り、その収益で新しいモビリティを導入し、地域を活性化させる活動をやっています。この活動で、地域がサステナブルに発展していくことを目指しています」(神戸マツダの橋本寛社長)

SDGs貢献賞
「数年前からビジネスと利益につながるだけでなくSDGsや社会貢献活動で企業価値を高められるのではないかと漠然とさまざまな活動をやってきました。表彰をいただいたことでその志が正しかったと感じ、社員や地域の皆さんにも誇れるものとなりました」(アデル・カースの池永成正代表)

「2021年の第1回から企画のすべてに賛同していた益田忠史会長」